



期末面談が行われます。担任と会うのは今学期初めてということもあるかもしれませんが、勉強や生活のことなど、気になることがおありでしたらどうぞ相談ください。

「まだあった!？」

最後ではなかった児童会の取り組み

～児童会ラジオ～

先生方は
みなさんのやる気を全面的に応援します!



「あおいさん! 1学期に心に残っていることは何ですか?」

「はい、あいさつの取り組みです。ユニユニが……。」

縦割り班の仲を深める取り組みで最後と思っていたら、21日(木)の給食時間にこんな放送が流れました。1学期のまとめに『児童会ラジオ』をしたいと児童会執行部が行ったそうです。それに、ちゃんと全校からメッセージも届いているではありませんか。マラソンをがんばったこと、縦割りで仲良くなったことなどが寄せられていました。児童会執行部も参加した子ども達も、この学期末の最後のギリギリまでこうして活動するとは「あっぱれ!!」であります。

放送が終わって教室に戻ったかと思うと、執行部の3人がマリンホールの「ユニユニ」の前に座り込んで話し合っています。どうしたかと思うと、「昨日終わった縦割り班の仲を深める取り組みのまとめを放送するために考えています」とのこと。「よし、できたね。これでいい。」また放送室に入っていました。子ども達はうれしそうに見えます。自分達が働きかけることで全校のみんなが協力してくれます。そして、学校が動いているということを確認に感じます。自分達が働くことで学校がよくなっているという手応えを感じています。この子達(執行部も協力してくれる全校の子ども達も両方)は、きっと、2学期もいろいろな動きをしてくれることでしょう。私達大人は、こういう子ども達の“やる気”を全面的に応援したいと思うのでした。

「言葉使いが悪くなっていますか?」

～よいことばかりではなく、よくないこともあえてお伝えします～

<学校運営・教育活動アンケートから その2>

学校運営アンケートにあったご意見をご紹介します。それは、「言葉使いが悪くなっているのではないか」というご意見でした。そう言われればと思ひ当たります。あいさつはよくなってきていることなどをお伝えしている一方で、よくないこともあえて子ども達をさらによくするためにお伝えします。

子ども達の会話の中で、「ゲームのなかでの会話」や「テレビの芸能人の会話」のようなことばが聞かれます。ふざけているのですが、乱暴だったり攻撃的だったりします。攻撃するつもりはなくても、自分の気持ちの高ぶりを表す言葉がほかには見当たらず安易に使っているということもあります。

今は、若い人や大人までもがそれらからの影響を受けやすく、口調がすっかりうつってしまっている人もあるようです。子どもに向かって話すときに、そのような言葉にならないように意識して使い分けなければいけないと思います。芸人と言われる人達も、実は、『敬語も使い分けられる』わきまえた人達なのだそうです。乱暴な言葉使いはわざと“芸として”使っていることに気をつけなければなりません。

先日、学校の先生ではなく一般の方々との集まりがあって、その場でも言葉使いが話題になりました。「『食べ!』は『食べて』と言わせたい。」「『飲んでえー』などの『てえ』は『たい』と言わせたい。」など、人によっては「そこまではよいのではないか」と賛否があるかもしれませんが、流されがちな言葉使いだと思います。また、「頭にくると『死ぬ』と言う言葉しか出てこないというの、言葉(語彙)の不足ではないか」という話題も出されていました。学校でも気にしながら指導していきますので、おうちでも気にかけていただいて、一緒に直していきたいです。

「小学校陸上記録会」が行われることになりました

新型コロナウイルス感染が心配される中、各校の代表が集まって何度も話し合いを重ねて、陸上記録会が行われることになりました。「町内の小学生が一斉に集まるのは感染の危険が高まるのではないか。」「観戦者も含めれば何人になるのか。感染が心配。」「6年生にとっては最後の記録会であり、貴重な教育活動なので実施してあげたい。」「本番だけでなく、それまでの取り組みにも意味があるのではないか。」いろいろな考えが各校から出される中、実施するとしたら何が必要か、実施するにはどんな条件が揃えばよいのかを考えてみました。

最優先は感染予防です。

「感染予防のためには、規模縮小もやむを得ないのではないか。」「できないなら6年生だけとか5・6年生だけにすることもやむを得ないのではないか。」「時間を短縮するために、種目数を減らして開催してはどうか。」「どの種目を行うかによって偏りが出ないか?」「他の大会のように無観客であっても今回は、保護者も理解していただけるのではないか。」「いろいろな条件がついても、実施できないよりはよいと理解してもらおう。」「……。感染が心配されるもの子ども達のために何とか行いたいというのはどの学校も同じでした。様々な意見を出し合い、各校のアイデアをまとめて、「開催」を決定しました。

今回、5年生の出番が大幅に減りますし、4年生の参加は見送られます。また、さまざまな制約があり、不自由、不便、不都合をおかけしますが、何とぞご理解をお願いいたします。

夏休みになったら何をしようか

お手伝い・仕事もする夏休みに

各学級で、子ども達は夏休みの計画づくりをしていました。毎日の勉強もやりながら、長い休みでなければできないこともできたらいいと願います。本をじっくり読んだり、作品づくりに取り組んだり。そんな時間をしっかりとつくるためにも、早寝早起きで、規則正しい生活をしなければなりません。さらに、体づくりのためにもご飯をしっかりと食べなければなりません。

そして、もう1つ、取り組んでほしいことが、「お手伝い・仕事」です。家族の一員として、何か家のために役立つこと、しかもそれを毎日行うこと。遊びたくても、面倒でも、天気が悪くても、必ずやること。これは、子どもの心の成長に大きなプラスとなりそうです。しかも、1年間ではなくて、夏休みの間と期間限定なら、できそうな気にもやる気にもなるのではないのでしょうか。

1 感染予防のために記録会の規模を縮小して行います

①参加児童

- ・5、6年生のみの参加

②種目

- ・5年100m 男女 ・6年100m 男女 ・リレー 男女
- ・1000m 男子（オープン） ・800m女子（オープン）
- ・ソフトボール投げ男女（オープン）

③観客の制限

- ・保護者のみとし、保護者以外の家族の観戦や一般・地域の方の観戦は遠慮していただく。
- ・あらかじめ、観戦希望の保護者を把握し、受付で入場証（仮称）を渡して身につけていただく

2 その他の感染予防対策も行います

①記録会に関わる全ての人（競技者・引率者・役員・観客・メディアなど）にお願いすること

- ・マスクを着用、手洗いを徹底する。
- ・受付で記録会1週間前からの体調の確認（発熱、咳・咽頭痛、味覚や嗅覚異常など）を行い、記録会終了後2週間も体調管理（検温等）と異常がある場合の主催者への報告を義務付ける。

②観戦スペースと児童の陣地スペースを分け、互いに出入りしないこととし動線も分ける。

